

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、細江圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和4年8月8日（月）10時から11時30分まで
参加者	委員：11人（欠席者3人）、関係機関15人（高齢者福祉課1人、北区長寿保険課1人、協働センターコミュニティ担当3人、地域包括支援センター細江2人、市社協地域支援課1人、市社協北地区センター6人、市社協西地区センター1人）
場 所	浜松市みをつくし文化センター 大研修室
内 容	<p>1. 挨拶（協議体会長、市社協北地区センター長）</p> <p>2. 自己紹介 新任8人紹介（コミュニティ担当職員3名含む） 「先を見据え、目指す地域像についての理解を深めよう！」</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①生活支援体制整備事業／協議体について 市社協担当者 【①日常生活圏域とは？②自分事とは？③細江圏域協議体では】 *資料参照</p> <p>②今年度の実施計画（案）について 市社協担当者 *資料参照 了承</p> <p>③福祉イノベーションD o - z o 協同組合 理事長 神谷尚世氏（社会福祉士） 講 話「テーマ／地域包括ケアシステムの成り立ちと生活支援体制整備事業の役割」</p> <p>①地域包括ケアシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険を中心としたシステム（仕組み）ではダメ。 ・これまでの地域福祉の延長ではダメ。 <p>②5年後、10年後、15年後、どこで暮らしていきたいですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅ですか？ ・介護保険施設ですか？ ・シェアハウスですか？ ・介護つき住宅ですか？ <p>Q誰と一緒にいたいですか？ A多くの参加者が自宅で暮らしていきたい。</p> <p>③5年後、10年後、15年後、このまちはどうなっていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの人や高齢者世帯だけでも生活できますか？ ・必要な情報をどのように得ることができますか？ ・福祉施設や病院などは充実していますか？ ・外出が困難になった時、床屋さんや美容院にどうやって行きますか？ ・自分に声をかけてくれる人はいますか？ ・今やっていることやあるものが、あとどれくらい続きそうですか？ <p>④このまちの「住まい」と「ケア」の安心と不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの町の不安とそして安心があると思います。 <p>後で、書き出して見てください。</p>

⑤エイジング・イン・プレイス（地域居住）

高齢期に虚弱化しても、自宅や地域に留まりたいという本人の希望に応え、住みなれた地域で、高齢者が尊厳を保ち、自立して、住みなれた自宅や地域で暮らすこと。

⑥地域包括ケアシステム

ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制。

⑦地域包括ケアを支えるサービス提供体制のあり方の将来像

地域住民は住宅の種別（従来の施設・有料老人ホーム・グループホーム・高齢者住宅・自宅）にかかわらず、おおむね 30 分以内（日常生活圏域）に生活上の安心・安全・健康を確保するための多様なサービスを 24 時間 365 日を通じて利用しながら病院などに依存せずに、住みなれた地域での生活を継続することが可能となっている。

⑧ヘルスケア産業（公的保険外サービスの産業群）の市場規模（推計）

・ヘルスケア産業（公的保険を支える公的保険外サービスの産業群）の全体像を整理した上で、民間調査会社等が既に試算している各産業分野の市場規模を集計し、現状及び将来の市場規模を推計。2016 年は約 25 兆円、2025 年には約 33 兆円になると推計された。

・今後、ヘルスケア産業政策の動向等を踏まえ、随時見直しを行っていく。

⑨参加した皆さんがそれぞれできること

・知識の受容 → 態度の変容 → 行動の変容

⑩ひと・もの・情報を活かしたつながりを実感できる地域づくり

・それぞれの役割を確認しましょう。

（講義に関する質疑応答）

Q 委員

もう少し、中間に立っていただく行政が仲立ちをしてもらおうとしないと、今おっしゃるような地域だけでやろうとしても難しいと思います。最近の行政を見てると丸投げしてしまって、非常に行政の力が弱っていると感じています。もう少しなんとかならないかと思っています。

A 講師

介護保険がだめイコール行政ももうだめです。ですから、もう行政に頼ってはだめです。実は、行政、人もいない。お金もありません。もう研修に行く余裕もない。

行政を頼ってもだめです。だから、行政は行政の役割、その制度の仲介をとってもらおうとか、もうそれだけに徹してもらった方が良いと思います。そして、むしろ全権を地域の人達が頑張れる状態にもってきてもらう。地域力を高めるのは、行政力を高めるわけではないです。地域の皆さんが何人、一緒にやれる人を作っていくかという事なので、そこで、去年よりも 10 人多く仲間ができた。去年よりも 10 店舗お店がたくさん協力してくれる。そういった方達が増えていくといいと思います。それぞれが、それぞれの役割で依存せずにやっていける方がいいと思います。

福祉施設も介護保険施設も今にあてにならなくなります。多分、包括さんがどきどきしているくらい、人手不足です。このコロナの状態が5年後当たり前の日常なぐらい人が足りなくなります。ですから、そんな中で誰が何をやるというよりもやれる人がどんどんやっていくという地域づくりをしていったら良いと思います。

Q委員

考え方を変えていかなきゃいけないと思った事が、例えば、今の協議体だけの考え方じゃなくて、その下に例えば細江、引佐、三ヶ日に福祉のまちづくり的な組織を作らないと、各地区社協で生活支援をやっていますが、それ以上のものをやっていくとなると町全体に話をしかけないと、地域の中で私困っているとなかなか言えないという状況があります。それには、地域の中で自治会、民生委員なり福祉に関係する人達の組織づくりを地域全体でやって、その中に地元の商工会とか企業とか銀行関係とか協力してくれるそういう組織を作って、そういう組織を作り上げないと、せっかく、今、話をされたものが、今、これを持ち帰って、地域で何やる？という事になってしまいます。まず、そういう体制を作って、地域との連携を始めていかないと、机上の中ではよくわかるけれども、実際に地域の中には色々な組織があります。組織がありすぎて、なかなか一つにならない。という所がありますので、福祉のまちづくりを作るなら、福祉のまちづくりを作る所から始めていって、組織づくりをやった中で、これから何をやればいいのかという事も見えてくると思います。当圏域でも商工会の人や企業の人に委員に入っていたらどうかと思いましたが、なかなか難しい。

A講師

組織を作るのが先か？サービスを作るのが先か？という風になってしまうと思いますが、組織を作るのはすごく時間がかかるので、まずは、ひとつずつサービスを作っていく、そのサービスの集団みたいなものを作ったらいいと思っています。

私が、この水色のパンフレットで作りましたこの共同組合は、それぞれ個人の事務所で行っている税理士や行政書士、介護福祉士、社会福祉士がばらばらでやっていたものを私が集めたわけです。集めてワンストップで研修会をやりますよ。相談にのれますよ。と言うと。この相談にも物れるの？例えば、助産師が赤ちゃん訪問しています。その家におじいちゃん、おばあちゃんが居て、おばあちゃんが寝たきりなんですと言われた時に困りごとがあって、そこに社会福祉士が相談に伺います。そしたらサービスを提供しますよ。という事なんです。まず、今ある人達でやれる事を最初にやっていく。そして、そこが少し集まったら、先程、江間会長さんがおっしゃったような皆で集まるような体制づくりをしていったらいいと思います。先に組織を作ってしまうとその組織の人だけになってしまうのが怖いです。先程も言いましたが、今まで関わってこなかった人達を少しづつ入れたいので、今まで関わってこなかった人達に何が出来る？どういう風にやれる？という“声掛け”をまずしていただき、そこが少し集まったら皆で集まるという形が良いと思います。

●意見交換・情報交換

3 グループに分かれて情報交換する。

*グループ1 (ファシリ/伊藤陽)・グループ2 (ファシリ/三室)・グループ3 (ファシリ/益本)

【意見交換・情報交換での設問】

- ①床屋さんや美容師さんで家まで来てくれる人がいる。
- ②一食、二食でも配達してくれるお店がある。

(意見)

・組合、商工会、商店、コンビニエンスストア等との連携等々

(まとめ) / 講師

・床屋さんの組合とかにこれから関わってもらったらい。家に髪を切りにいってもいいよと言ってくれる人たちを呼び込んだらどうか？じゃそれをやるにはどうしたらいいか？行政に話をしてみたらどうか？行政はできません。行政ができないならどうすればいいか？商工会が情報を持っています。商工会からその組合とか、商工会に入っている床屋さんとか美容師さんの仲間に一斉にアンケートをとってもらえばいい。そうすると、どんどん形になっていきます。今、自分達は何も困っていない。ここにいる皆さんは、いろいろと自分でやれる。困りごとを聞いているけど、すごく大変な困りごとではない。困りごとを聞いているのは誰か？日々、地域包括支援センターさんが困り事ばかり聞いています。その人達が具体的にその困りごとを教えて欲しいと言った時に、社協さん等が困りごとを上げてもらいます。まさしく、これが地域包括ケアシステムのあり方です。地域ケア会議といって、包括を中心とした困りごとをどうにかしましょうという集団があります。その困りごとがどうにもならなかった時に生活支援体制整備にかけるのです。困りごとどうしようもないので、こういうサービスがあったらいいです。という風になげるのが、この地域包括ケアシステムです。今、自然の流れの中でそれがこういう風にやったらいいなというのがだんだん出てきました。次回の時までには社協さんが地域包括さんに地域の中の困りごと。地域の中の困りごとというのは、大きな困りごとじゃなくていいです。個人の困りごとのたくさんを集めて欲しいです。床屋が困る。ご飯が困る。買い物困る。そういう事でいいです。それを解決するためにここで話し合います。協議体の委員さんは、各組織の会長さんばかりですけど、会長さんだから来てもらっているわけではないです。会長さんが、今まで得た人脈と経験と知識が欲しいです。人脈と経験とネットワークをここでふるに使用してもらいたいです。そのコネクションを使いながら、いろいろなサービスを作っていきたいと思っています。ですから、会長だから副会長だからという事を考えなくていいです。自分中心にここで参画していただいて構いません。そこで皆さんの作ってくださったネットワークを元にサービスをどんどん作り出していく。そうするとまた違うサービスが違う所から出てきますから、誰かが一つやり出せば動き出します。だから、誰かの一番最初をここで作っていきたくと思っています。是非、そういった形で皆さん

	<p>この会議に参画していただけたらと思います。これからわくわくしながらあれもできるな、これもできるなというものをどんどん作り出していきたいと思ます。</p> <p>⑤地域包括支援センター細江から *資料参照</p> <p>4. 来年度の開催数と日程（案）について 令和4年11月15日（火）10:00～ みをつくし文化センター *事前打合せ会； 月 日（ ）10:00～市社協北地区センター（正副会長）</p> <p>5. 閉会の言葉 生活支援体制づくり協議体 Y副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>これまで、ぼんやりしていた協議体のイメージや今後の活動内容が講師の話で明確になった。地域に出て、地域の中の困り事（高齢者の声）をまとめていきたい。個人の困り事をたくさん集めて地域包括へ報告する。地元の商工会からお店の情報（出張訪問、出前等）を聞きまとめていく。</p>